

資料 1

もくぞうふどうみょうおうりゅうぞう もくぞうびしゃもんてんりゅうぞう
木造不動明王立像・木造毘沙門天立像

<概要>

法 量	不動明王立像	像高 138.2 cm	髪際高 128.5cm
	毘沙門天立像	像高 146.0 cm	髪際高 128.9cm
時 代	鎌倉時代初期		

海徳寺門前のかいとくじ小堂こどう・一行庵に安置される不動明王立像と毘沙門天立像各一軀で、と

もに寄木造、彩色、玉眼^{ぎよくがん} 嵌入^{かんにゅう}の像である。

両像は、明治初年の神仏分離に際して、伊勢松坂で大浜（現碧南）商人によって購入され、海徳寺現本尊・木造阿弥陀如来坐像とともにもたらされたと伝えられている。本尊は、伊勢神宮内宮近くにあった菩提山神宮寺の本尊である。

一行庵蔵の両像は、本尊脇侍^{わきじ}の不動明王、毘沙門天像にあたると思われ、ともに^{ふんぬそう}忿怒相ながら抑制された穏やかな面貌^{めんぼう}にまとめられており、細身で繊細な作風は平安末期の特徴をしめしている。しかし腰を大きく捻った体勢などは鎌倉時代のもの、その制作年代は鎌倉時代初期と考えられる。

両像は、菩提山神宮寺旧在像として神仏習合の実態や碧南地域の伊勢地域との文化的つながりなどを伝える点でも貴重な像である。

1 玉眼：目の部分に水晶をはめこんで、実際の目に近い感じを表す技法。

2 忿怒相：激しい怒りを示す仏像や仏画の表情。

もくぞうふどうみょうおうりゅうぞう もくぞうびしゃもんてんりゅうぞう
木造不動明王立像・木造毘沙門天立像



木造不動明王立像



木造毘沙門天立像

(愛知県総務部法務文書課県史編さん室提供)